

I 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

1. 盛岡大学の建学の精神と使命・目的

盛岡大学（以下、「本学」）は、「学校法人盛岡大学寄附行為」（以下、「寄附行為」）第3条に、本法人の目的を「教育基本法及び学校教育法に従い、キリスト教精神に基づき、学校教育を行い、有為な人材を育成すること」と規定し、学校法人として建学の精神を明確にしている。この規定を基に、盛岡大学学則（以下、「学則」）第1条には、本学の使命・目的を「キリスト教精神により、教育基本法に則り、学術を教授研究し、広い視野と高い識見を養い、文化の向上と社会の福祉に貢献する有為な人間を育成すること」と謳っている。

2. 盛岡大学の行動原理

全学の代表者によって組織された「学校法人盛岡大学 21 世紀委員会」（委員長は盛岡大学・盛岡大学短期大学部学長）は、「21 世紀初頭の法人運営の指針及び教育の基本―学校法人盛岡大学が進むべき道」を明らかにした（平成 13（2001）年 6 月 15 日理事長へ答申）。その中で、上記した教育理念実現のための具体的な行動原理を提唱した。それは「対話のある学校」である。本学が開設 20 周年を機に全学の目標となる行動原理を考えた際、「対話のある大学」を掲げることとしたのは、教員と学生とが授業や研究活動を通じてきめ細かい日常的な交流を行ってきたことによるものである。教職員と学生、教職員と教職員、大学と法人内の各施設、大学と地域社会などの「対話」を通して、言葉と知、豊かな心を培うことを具体的な行動原理としたのである。

3. 盛岡大学の教育目標

盛岡大学は前掲した建学の精神と使命・目的、行動原理を实践する上での教育目標を設定している。これは 4 年に一度の見直しを行っている。現行の教育目標は以下の通りである（最新のものは平成 20（2008）年度から）。

- (1) 東北の地域に根ざしながら、学術の中心として個性を持った魅力ある大学をめざす。
- (2) 広い知識と深い専門性を持つとともに、奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力及び国際化時代に対応した実際的応用力を身につけた教養ある善き社会人を育成する。

また、設置されている各学科は、この大学の教育目標をもとに、それぞれ次のような教育目標を掲げている。これも大学のそれと同様、4 年に一度の見直しを行っている（最新のものは平成 20（2008）年度から）。

- 〈英語文化学科〉 英語圏の言語や文化についての専門知識と幅広い教養を培い、同時に実践的な英語運用能力を習得し、進展する国際化や情報社会に即応できる人材を育成する。
- 〈日本文学科〉 国際的視野に立って、日本特有の言語・文学・文化を幅広く学び、時代に役立つ人材の育成を目指す。また、読む、聞く、話す、書く能力がバランスよく備わり、自らの問題を見出して解決するこ

とができる人材を育てる。

〈社会文化学科〉文化・社会・歴史の領域を総合的に学習することにより、自己を取り巻くさまざまな課題に強い関心を持ち、積極的に行動し、的確に対応・解決できるような人材の育成を目指す。

〈児童教育学科〉幅広い専門的教養と創造性豊かな実践力および対人関係能力を備えた人材を育成し、初等教育に携わる教員を養成する。

また、平成 12 (2000) 年 4 月には、英米文学科 (当時)、日本文学科、児童教育学科に専攻科が設置された。専攻科の設置理由は「大学教育の基礎の上に更に高度の専門教育を教授し、その研究を指導するため」と学則に規定されており、教育目標は上記各学科の教育目標をさらに高度に展開することとなっている。

4. 教育研究活動の方針

前述した教育目標の下に、それぞれの学科は次の通りの活動の方針にしたがって教育研究活動を実践している。

〈英語文化学科〉

- ・ 世界共通語としての英語をコミュニケーションの手段として段階的に習得できるように、もっとも効果的な教授法を用いて指導する。
- ・ 三系列 (英米文化・英語学・国際文化) を幅広く学びながら、興味ある分野を選び専門性を深め、研究基礎能力を養うように演習指導を行う。
- ・ 主体的に読書・レポート作成・卒業研究を行いながら論理的に思考し、解決し、発表する能力を身につけて、教育や企業の現場で活躍できる人材の育成を重視する。

〈日本文学科〉

- ・ 著名な文学者を生んだ地であり、豊富な民俗伝承を持つという地域の特性を活かして郷土の文学・民俗の研究を推進すると同時に、そこから得られた研究成果を学生や地域社会に発信・還元してゆく。
- ・ 日本語教員を育成するプログラムと専門科目の中に海外の文学や文化にかかわる科目を設定して、進展する国際社会に対応する。
- ・ 上記特性を活かしながら、従来の日本語・日本文学・中国文学研究も重視する。

〈社会文化学科〉

- ・ 興味・関心ある領域・研究テーマを自発的に見出し、専門性を高めるとともに、他領域についても総合的に学修し、多面的な視点を醸成する。
- ・ 少人数教育の特性を活かし、教員と学生、学生相互のコミュニケーションの充実を図る。
- ・ フィールドワーク体験、演習科目での発表などを通して、課題の的確な把握・分析や解決に取り組み、討議やプレゼンテーション能力の向上に努める。

〈児童教育学科〉

- ・ 3 年次から「学校教育学コース」「心理・臨床教育コース」「表現教育コー

ス」の3コース制をとって専門的教養の育成を図っている。

- ・ 地域の小学校と連携し、学生が子どもたちと直接かかわる機会を設けることで、教師としての実践力や対人関係能力の育成を図っている。
- ・ 異学年クラスを編成し、先輩と後輩が協力して模擬授業やテーマ劇をつくることで、創造性や協調性などの育成を図っている。

これに加え、それぞれの学科に共通して、「対話のある学校」を実践するべく、担任を中心とした個人面談を充実させ、成績不振者などへも手厚い対応をしている。

また、学科ごとに教員・学生・卒業生などを中心にした学会を設置して、それぞれの特色ある研究活動を進め、機関誌を刊行している。

II 沿革と現況

1. 盛岡大学の沿革

【盛岡大学】

盛岡大学は、文学部の単科大学として昭和 56 (1981) 年 4 月、盛岡市厨川に開設された。文学部英米文学科と児童教育学科の二つの学科でスタートし、昭和 62 (1987) 年 4 月に日本文学科が増設され、平成 12 (2000) 年 4 月にはそれぞれの学科に英米文学専攻科、日本文学専攻科、児童教育学専攻科を開設し、平成 17 (2005) 年 4 月には英米文学科を英語文化学科に名称変更するとともに、文学部の中に新たに社会文化学科を設置した。

児童教育学科を設置するという当時としては珍しい学科構成を持つ文学部で、開学当時から文学部は“literature”に限定されるのではなく“humanities”を教育研究の対象として意図しており、キリスト教精神をもとに人間教育を基盤にした教育研究活動を展開してきた。それゆえに、教師と学生との人格の接触を重んじ、常に尊敬と信頼を深めることに努めている。

学校法人盛岡大学は、前述した建学の精神を持つ盛岡大学に象徴されるような教育理念と、創設者の地域社会の福祉に寄与する人材を養成するという信念をもとに、50 有余年の歩みを続けてきた。したがって、法人各施設が学習者に付与する資格も、栄養士・保育士・調理師・教員免許（幼・小・中・高）・図書館司書・学芸員といった地域の福祉に寄与するものである。結果として、卒業生の多くはこうした教育と資格を活かして、官公庁、教育界及び各地の各種企業で広く活躍している。

【学校法人盛岡大学の沿革】

学校法人盛岡大学と本学の沿革は、次の通りである。

昭和 26 年	6 月 15 日	各種学校盛岡生活学園の設置認可
昭和 31 年	3 月 20 日	学校法人生活学園の設立認可
昭和 32 年	4 月 1 日	愛育幼稚園開園（のちに盛岡大学附属愛育幼稚園と改称）
昭和 32 年	8 月 1 日	盛岡生活学園栄養科を盛岡栄養専門学校と名称変更
昭和 33 年	4 月 1 日	生活学園高等学校開設（現盛岡大学附属高等学校）
昭和 36 年	4 月 1 日	盛岡調理師学校開設（現盛岡調理師専門学校）